



## ■主な自然環境対策の取組み

「早稲田リサーチパーク地区」と「本庄早稲田駅周辺地区」の地域整備事業では、本庄新都心地区環境検討委員会の提言や、学識委員ヒアリングに基づき様々な自然環境対策が実施されています。主なエリアごとの取組みは、以下の通りです。

### I. 法面樹林地創出エリアー早稲田リサーチパーク地区ー



リサーチパーク地区北東部の谷部は、造成されグラウンドとして利用されていました。環境検討委員会では、オオタカの繁殖にとって重要な「推定営巣中心域」内に位置すると判断されましたが、既に人の利用が図られていた中で繁殖が継続されていたことから、建物等の建設を進めるに際しては、グラウンド利用時よりも緑化・植栽を推進すべきことが提言されました。

2007年まで単純なシバ草地として管理されてきた施設北側の9,372㎡におよぶ法面は、2008年3月から在来樹種の植栽による森づくりが開始されました。

●2006年4月21日

大久保山に至る尾根道と  
インキュベーション施設北側の法面（植栽前）



●2007年4月20日①  
植栽前の法面（西から東方向）



●2008年5月12日②  
植栽初年の法面（西から東方向）



●2010年5月28日③  
植栽3年目の法面（西から東方向）



●2011年6月16日④  
植栽4年目の法面（西から東方向）



●2013年1月11日⑤  
植栽6年目の法面（西から東方向）



●2013年5月2日⑥  
植栽6年目の法面（西から東方向）

斜面の森づくりでは、周辺環境に馴染んだ樹林とするため、植生調査の結果に基づきコナラ、エゴノキ、アオハダ、ヤマザクラ、アカマツ等の雑木林を構成する在来中木が植栽されました。



●2014年2月7日⑦  
植栽7年目の法面（西から東方向）



●2015年12月5日⑧  
植栽8年目の法面（西から東方向）



●2017年4月15日⑨  
植栽10年目の法面（西から東方向）



●2018年6月8日⑩  
植栽11年目の法面（西から東方向）



●2020年11月13日⑪  
植栽12年目の法面（西から東方向）

植栽後10年程の段階で、樹高5～8m程の二次林が形成され、法面下の建物はほとんど見えなくなるほどの斜面林となりました。



●2008年5月12日  
二次林の構成種が混植された当初の法面



●2008年5月12日  
植栽直後の法面樹林帯の林床



●2020年11月13日  
尾根の既存樹林と完全に同化した法面



●2018年6月8日  
植栽後10年が経過しても林床は今だ未発達